

科目名	ジェンダー論	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	矢口 裕子		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-A-1-110023	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的	ジェンダーとは、生物学的・肉体的性差と区別して、社会的・文化的に構築される性差を指す。ジェンダー論は1980年代以降一般化した新しい学問であるが、人として生まれたものであれば、年齢・人種・階層を問わず誰もが関わらざるをえない問題を多く含んでおり、2015年にはアメリカ全土で同性婚が合法化されるなど、グローバルな課題となっている。いる。本講義では、ジェンダー論を各自が自分の問題として捉えるとともに、批評的かつ建設的な眼差しをもって向きあう姿勢の構築を目指す。最新の学問的動向にも目を配りつつ、理論一辺倒にならないよう、理解の一助としてオーディオ・ビジュアル資料も適宜用いる予定である。				
学修到達目標	ジェンダー論の基礎概念・歴史的経緯を学ぶとともに、自分の生き方にかかわる問題としての意識が身につく。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	イントロダクション
第2回	言葉とジェンダー
第3回	フェミニズムからジェンダー論へー歴史と理論①

第4回	フェミニズムからジェンダー論へー歴史と理論②
第5回	セクシュアル・マイノリティ①
第6回	セクシュアル・マイノリティ②
第7回	セクシュアル・ハラスメント
第8回	ジェンダーと暴力①
第9回	ジェンダーと暴力②
第10回	男性学の位相
第11回	メディアのなかのジェンダー①
第12回	メディアのなかのジェンダー②
第13回	ジェンダーとアート①

第14回	ジェンダーとアート②
第15回	まとめ
第16回	試験または／およびレポート

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。前週配布した資料を通じての予習
【復習】時間・内容	2時間。配布資料の見直しと不明点を調べ理解する。

成績評価	
評価基準・方法	授業内に随時課す少レポート、コメントへの講評 成績は定期試験または期末レポート90%、授業内レポート10%で評価する。
フィードバック方法	コメントカードへの応答。

アクティブラーニング	
実施の有無	×
実施内容	

教科書/参考書	授業中に指示する。
受講上の留意点等	出席のための出席は意味がない。私語は厳禁。自分が欠席した授業の内容・そこで伝えられた情報は自分の責任で回収すること。試験・レポートに際し剽窃・コピーは自動的に落第、ウィキペディア等執筆者が特定できないものを資料として使うことはできない。
JABEE	